

Book Review

評者：山内豊明 放送大学大学院教授／名古屋大学名誉教授

訪問看護師による在宅療養生活支援を可視化する 希望実現モデル

編著：川村佐和子／発行：医学書院

定価：3300円（本体3300円＋税10%）



「問題に」ではなく「希望に」取り組む

ヒトが「生きている」ためには、pHを7.40に維持しなければならない。その上で、人間が「生きていく」ためにはどうあらねばならないのであろうか。それについては絶対的な画一的目標が前提として定められているわけではなく、こうありたいという各自の「希望」が目指すべきものであろう。この希望の実現にどう貢献するかこそが、生命を護り、生活を支える医療職のレゾンデートル（存在理由）であり、それを自律して行う任務と責任があることが、本書の第1部に明確に示されている。

クライアントの希望の確認、現状把握、現状から希望への行程の設計と推進、障壁の低減、場合によっては目標とする希望についての善良なる現実的な再調整、これらが希望の実現に向けての作用機序と考える。これは太古の昔から人間の暮らしと共にあったケアという体験からも経験していたものであろう。良質な体験の結晶化がいわゆる経験知であり、それは経験的に使っているがなかなか言葉で説明できない知識である。それを形式知として可視化することは容易ではないが、これを可視化し、モデルとして体系化したものが第2部である。

形式知として可視化されたものであっても、そもそもが高度に結晶化した経験知で、かなり抽象化されている。それを具象化して現実場面に照合するのは難し

いこともあるが、それについて第3部で手ほどきをしている。

本書のタイトルの冒頭には「訪問看護師による」「在宅療養生活支援を」とあるが、このモデルは必ずしも「訪問看護師」「在宅療養生活」に限定したものでもないと考えたい。暮らす際に、あえてよそ様の手を煩わせたいと思っている者はいないであろう。できることならばマイ・スペースで、マイ・ペースで過ごしたいものである。どうしても他人の目や手が密に必要な際に致し方なく一時的に利用せざるを得ないのが医療機関であり、その先には暮らしが待っているのである。医療ケアにおいては、展開する場も関わる者も連続的であり、たとえクライアント自身が医療機関で過ごす場面であっても、この希望実現モデルは作用していないこととは明白であろう。

本書は、経験が豊かな医療職にとっては自らの経験知を形式知に相照らすことで、より洗練されたケアへと発展させる一助となろう。まだ経験が豊富ではない者にとっては、経験知のエキスを形式知を通して受け継ぐことができるであろう。看護職に限らず全ての医療職にとって根底に共有すべきモデルであり、必読の書として強くお勧めしたい。